



城北小だより

7月号

令和6年6月28日

さいたま市立城北小学校

TEL 048-757-5391

児童数 701名

◇学校教育目標◇

「考える子 思いやりのある子 がんばりぬく子」

「あいさつ」はしなくてもよいもの？

校長 中村 篤

6月1日(土)に運動会を実施しました。「見せつけろ！ 燃える魂 最後まで」というスローガンの下、どの学年もすばらしい演技や迫力ある競技を見せてくれました。その中で感動したことが二つあります。一つ目は、全員が全力で臨むことができたということです。6月に向けての校長講話では、「一生懸命はカッコいい」という話をしました。子どもたちの一生懸命に頑張る姿はとてもしっかりよかったです。二つ目は、勝負に負けても、勝ったチームに拍手を送っていた子がいたことです。これはなかなかできることではありません。互いに称え合う姿もしっかりよかったです。保護者や地域の皆様には、たくさんの温かなご声援を賜り、ありがとうございました。

昨今、あるSNSで「あいさつは必要か不要か」論争が起こっており、私も肯定派と否定派の意見を読んでみました。否定派の意見の中には「なるほど」と思わせるものもありますが、どうも腑に落ちません。車を運転していると、他の車に道を譲ることがよくあります。ほとんどの運転手は手を挙げたり、会釈をしたりしてお礼をしてくれるのですが、何もないと少し残念な気持ちになります。また、先日、娘と一緒に細い歩道を歩いていると後ろからチリンチリンとベルを鳴らされたので、こちらが避けるとそのまま無言でスーッと自転車が進んでいきました。歩道を走るべきでない自転車が歩行者に向かってベルを鳴らすとは失礼極まりないことです。娘とは「いい大人が何で追い越すときに『すみません』の一言が言えないんだろうね」と話をしました。

あいさつは一番簡単にできるコミュニケーションです。あいさつをして損をすることは何もありません。あいさつは人間関係を円滑にします。面識のない人に対して私が日常生活で心掛けているあいさつの場面を思い返してみました。

①買い物で会計を済ませたあと、レジ係の方に「どうも(ありがとう)」と言う。

②飲食店で会計を済ませたあと、店員の方に「ごちそうさまでした」と言う。

③エレベーターで降りる時、扉が閉まらないように開ボタンを押してくれている方に「ありがとうございます」と言う。逆に自分がボタンを押して扉を開けているときは「どうぞ(お先に)」と言って先に降りてもらおう。

④横断歩道を渡るとき、止まってくれた車の運転手に会釈をする。

①と②については、「こちらはお客様なんだからお礼(あいさつ)を言う必要はない」と言う人がいます。いろいろな考え方があるので、そのような人がいてもいいかなとは思いますが、でも私はあいさつをします。私の息子も娘も同じように店員の方にあいさつをします。だってお互いに気持ちがいいから。たった一言で気持ちがよくなり、コミュニケーションを取ることができる「あいさつ」は本当に魔法の言葉だと思います。

過日、城北中学校の校長先生から「今年の中1の生徒はよくあいさつができる」とお褒めのお言葉を頂きました。地域の方からも「以前よりあいさつをしてくれる子が増えた」というお言葉も頂いています。少しずつあいさつ運動の成果が出てきていることを実感しています。子どもは大人をよく見ている。子どもは大人のやることを真似します。あいさつは決して強制されるものではありませんが、我々大人が率先してあいさつをすることで、子どもたちがあいさつの大切さやよさに気づいてくれたらと思います。

何事にも一生懸命頑張れる、あいさつも頑張れる、そんな「カッコいい城北っ子」を学校、家庭、地域で連携しながら共に育てていきましょう。